

状況記録写真

(様式6)

区分	自主
----	----

森林技術センター



ビニールネット



ヘキサチューブ及びビニールネット



実施後遠景

平成9年度84ぬに4野兎防除試験

地拵(枝条存置)

様式 2-2

課題名		野兎被害の簡易な防除技術			
課 題 区 分	自 主 課 題	開 発 個 所	青井岳国有林 84ぬ林小班	開 発 期 間	平成9年度 ～ 平成12年度
当年度別実施計画			当年度実施報告		
1，経過観察			1，経過観察 当試験地はヒノキ短伐期施業導入試験地内に設定しているが、平成10年度は野兎による食害は発生しなかった。 防除方法別には、古新聞・飼料用紙袋・モグラ脅し防除法は強風のため破損したが、古新聞は雨により濡れ落ちた跡のインクによる忌避効果及び、飼料用紙袋も一定期間の効果があるのではないかと考えられる。		
2，実施結果			2，実施結果 試験地内で野兎の糞を多く確認したが被害が発生しなかったことから考えると、一定の効果があるのではないかと考える。平成11年度に各防除法の補修手直しの実施したいと考えている。		

状 況 記 録 写 真

(様式6)

区分	自主
----	----

森林技術センター



平成10年度84に4ぬ野兎防除試験地現況
平成10年7月21日撮影(下刈実行後)

様式 2-2

[illegible]

状況記録写真

(様式6)

区分	自主
----	----

森林技術センター



平成11年度84ぬ野兎防除試験地現況

状況記録写真

(様式6)

区分

自主

森林技術センター



平成11年度84ぬ野兎防除試験地現況

技術開発実施報告・計画

様式 2

森林技術センター

課 題	20 野兎被害の簡易な防除技術		継 続 新 規	担 当	森林技術 センター (業務第Ⅰ係)	開発 箇所	鰐頭国有林 84ぬ林小班			
目 的	造林地における野兎の被害を回避するため、簡易な防除技術を施しその回避技術を解明する。		開発期間	平成 9 年 度 ～ 平成 12 年 度						
年 度 別 実 施 経 過		12 年 度 実 施 報 告		年 度 実 施 計 画						
		実 施 内 容	備 考 (評価及び普及指導)							
平成9年度 1, 試験地設定 2, 対象区設定 平成10年度～平成11年度 1, 経過観察		1, 経過観察 対象区での被害発生が9割程度に及んでいる。	1, 実施結果 対象区に比べ被害の発生頻度は少ないようであるが、各防除方法により被害の発生状況が異なり、防除効果に差があるようである。詳細については、完了報告に記載。	実 施 計 画						
					経 費 科 目					
					内 訳		品 名	数 量	単価	金 額
						物件費				
						役務費				
				人件費		基 職 臨時	()人 人			
					計	()			千円	

- (注) 1 課題欄には、技術開発課題名に番号を付して記入する。
 2 実施報告欄には、当該年度の開発成果を記入する。
 3 備考欄には、開発成果の評価等について記入する。

技術開発完了報告

様式 3

森林技術センター

課 題	20 野兎被害の簡易な防除技術		開 発 期 間	平成9年度 ～ 平成12年度	
開発箇所	鰐頭国有林 84ぬ林小班	技術開発目標	効率的な森林管理及び健全な森林の育成技術の確立	担 当	業務第Ⅰ係
開発目的	造林地における野兎被害を回避するため、簡易な防除技術を施しその回避技術を解明する。				
実施経過	1, 試験地設定 ヒノキ短伐期施業技術導入試験(30年伐期品種)試験地内に設定 防除方法 ①ヘキサチューブによる防除法 ②古新聞を造林木の長さに切り、両端をホッチキスで止め竹を支柱にし造林木に被せる ③飼料用の紙袋を造林木の長さに切り、両端をホッチキスで止め、竹を支柱にし造林木に被せる ④水性ペンキを造林木の幹や枝に塗布する ⑤造林木の周囲に末木枝条を立て防除 ⑥ビニールネットを造林木に竹を支柱にし被せる ⑦防雀テープを支柱に巻き造林木の周りに3本程度立てる ⑧モグラ脅し(風車)を造林地に立てる 2, 対象区設定 同一林小班内に設定 3, 試験地標示 全体標示板2基(同一小班内に試験地を4箇所設定のため4課題を一斉標示) 4, 試験地補修 平成11年度に、水性ペンキ塗布・防雀テープ・ビニールネットの補修を実施				
開発成果	1, 平成10年度は、野兎による食害は発生しなかった。 2, 防除方法別には、古新聞・飼料用紙袋・モグラ脅し防除法は強風のため破損したが、古新聞は雨により濡れ落ちたあとのインクによる忌避効果が確認された。また、飼料用紙袋も一定の効果が確認できた。 3, 平成11年度の経過観察の結果から、隣接のヤマザクラ・イヌエンジュ植栽試験地の野兎被害が植栽木の殆どに及んでいるのに対し当試験地の被害は軽微であり試験効果が現れている。ヘキサチューブは設置後2年余りが経過し雨水等による劣化破損が見受けられる。ビニールネットの竹支柱に野兎が足をかけて食害した造林木が数本あった。 4, 水性ペンキを塗布後時間を経過した造林木に被害が発生した。 5, 平成12年度は、対象区の被害が拡大した。				
評価及び普及指導	1, 各防除方法ともある程度の防除効果があったが、時間を経過するにつれて被害が発生した。このため、設置後の維持管理が必要である。造林木が生長すると、支柱を立てて実施した防除方法は、野兎が支柱に足をかけて食害を受けている。 2, ヘキサチューブは、市販の製品を2等分して使用し防除効果はあったが2年ほどで劣化し破損した。 3, 水性ペンキを塗布する方法は、定期的に行うことによりいっそう効果的と考える。尚、水性ペンキを塗布することによる生育への影響は当試験地では発生していない。 4, 今後、造林木の生長に合わせた防除方法の検討が必要であるとする。				

- (注) 1 課題欄には、技術開発課題名に番号を付して記入する。
 2 技術開発目標欄には、課題に関連する技術開発目標を記入する。
 3 評価及び普及指導欄には、開発成果の評価及びその普及状況等について記入する。
 4 必要に応じ、別途報告書を添付すること。

野兎被害の簡易な防除技術状況写真

NO 1

ヘキサチューブ



ビニールネット



肥料袋



古新聞



野兎被害の簡易な防除技術状況写真

NO2

末木枝条



モグラ脅しと枝条末木



モグラ脅し



白ペンキ塗布



野兎被害の簡易な防除技術状況写真

NO 3

野兎食害
ヘキサチューブ施工



野兎食害
ビニールネット施工



ヘキサチューブ施工

